



贈ること 贈られること

心 あ つ た か ニ ュ ー ス

クリスマスの奇跡は、戦争中もありました。第一次世界大戦時のクリスマスに、きよしこの夜の歌から、お互いの交流となり、休戦になりました。現代の、奇跡のことを探しました。

2021年11月フジテレビの奇跡体験アンビリバボーで放送されたお話を紹介します。アメリカ・カンザス州に住む、双子の姉妹、ルナとジャネラは、サンタクロースに手紙を書きました。毎年、サンタ宛の手紙を受け付けている地元の郵便局に欲しいモノをいくつか書いた手紙を出しに行っていました。今年、欲しいものは、ボールやイヤリング、そしてワンちゃんでした。一家はこの春、ペットのチワワを病気で亡くしていました。12月、の郵便局はかなり混雑するため、コロナウイルスへの感染リスクを考え、外出することを避けたかった母、レティシアは、なんと海の向こうにいるサンタに届くようにと、手紙を風船につけ、空へ放ちました。風船についた、手紙を拾ったのが、アルビン・バンブルグでした。

双子が飛ばした2つの風船のうち1つが、カンザス州リベラルから南に約800キロも離れたルイジアナ州シユリーブポートまで飛びました。手紙を受け取ったアルビンにも双子の姉妹と歳が近い孫がおり、人ごととは思えず、サンタの手伝いをする決心をしました。とはいえ、ルナといファーストネームと、街の名前しかわからなかったため、風船と手紙の写真をSNSに投稿し、なんとか女の子の情報をつかめなにかと呼びかけます。

母のレティシアが、呼びかけを知って電話をします。双子に、クリスマスプレゼントが届きました。その3か月後

偶然ダックスフントの子犬をもらい受けることができたアルビンが、800km離れた双子の自宅まで、直接プレゼントを持ってきてくれました。アルビンさんの言葉です。

「アルビンさんと呼んでくれて、笑ってくれて、それがすべてです。この一年、世界の状態は良くありませんでした。ですが、一人でも笑顔にすることができたなら、それはその人だけでなく自分にとつての幸せにもなるのです。」2人とはいまも頻りに電話やメールでやりとりしています。彼女たちはもう一つの家族のような存在です。

私にとって、この友情は何ものにも代え難いクリスマスプレゼントです。「母のレティシアさんの言葉です。『この地球には素敵な人たちがたくさんいます。自分の時間を費やして、他の誰かを幸せにしようとしてくれるなんて、本当に心が温まる出来事でした。私たち家族だけでなく、このコロナ禍に多くの人を笑顔にしてくれました。アルビンさんと奥様は、私たちにとって、もはや家族です。』」

編集後記

物うんぬんではなく、誰かに贈る、そして送られることは、お互いの心を温かくするなと思いました。そういう交流を本当は、いつもしているのが私達なんだなと思います。物だけじゃなく、言葉でも、行動でも。外は、寒くても、心が温かいこと。とても幸せなことですね。